

数学とわたし： 好きこそものの……

一般向け科学（主に数学）啓蒙書翻訳家
富永 星

訳書としては、たとえば……

『数学ができる人はこう考える』シャーマン・スタイン
『素数の音楽』マーカス・デュ・ソートイ
『若き数学者への手紙』イアン・スチュアート
『ベッドルームで群論を』ブライアン・ヘイズ
など。

0) 今日ここに至るまで：そもそも数学に惹かれたきっかけ、そして……

- 中学時代 証明が好きで、数学部？
- 遠山啓さんの講演 無限？
- 大学に入ってみたら あ！回路が違う！
- 教員として 6割が「算数嫌い」な12歳を前にして
- さらなる転機 ドクター・ストップは想定外
- そして今 うう、研究の現場を知らなすぎる！
(好きなものについて、さらに知る喜び)

1) どう見ても、数学への社会の見方は変わってきている。

イアン・スチュアートの著作、
Journalist In Residence での見聞

2) 数学の魅力、中学、高校の数学とその先の数学と

- a) ビュッフォンの針の問題を、ちょっとした実験と推論で解く。
(シャーマン・スタインの著作から。)

- b) 難しく、ややこしくなるだけが数学ではない。
一見、簡単そうなものに潜む不思議。
(マーカス・デュ・ソートイの著作から。)

- c) 図形の話+確率の話=結晶の話?
(砂田利一先生の仕事)